



アンサンブル・ホリゾンテと澤田幸江 (ヴァイオリン) を迎えて
 With Ensemble Horizonte & Sachie Sawada, violin

2024.10.20

16:00[開演] / 15:30[開場]

愛知県芸術劇場 大リハーサル室

地下鉄「栄」駅下車 徒歩5分
 愛知芸術文化センター 地下2階

◆チケット (消費税込・全席自由)

一般 ¥3,000 学生 ¥2,000 (当日各500円増)

*学生料金は25歳以下対象 (要証明書)

未就学児のご入場は、お断りする場合がございます。

◆チケットのお取り扱い

ニンフェアート nymheart@yahoo.co.jp

090-5621-3697 (メール・電話予約受付中)

愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド 及び

愛知県芸術劇場オンラインチケットサービスチケット発売日 (もしくは取扱い

開始日) : 9月6日 (金) 10:00

052-972-0430 (月曜定休)

<https://www.stage.aac.pref.aichi.jp/event/>



■主催・お問い合わせ ニンフェアート 090-5621-3697,

nymheart@yahoo.co.jp

愛知県芸術劇場 052-211-7552 (10:00-18:00),

contact@aaf.or.jp

■助成 公益財団法人十六地域振興財団

■後援 日仏現代音楽協会

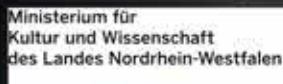
■サントリー芸術財団 佐治敬三賞 推薦コンサート



・・・プログラム

- ・マルティン・ヘルヒェンレーダー 《冬への旅》(2015)
(フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)
 Martin Herchebröder "Voyages d'hivers - Silence"
- ・マティアス・ピンチャー 《ピオンド II》(2020)
(フルート、ヴィオラ、ハーブ)
 Matthias Pintscher "Beyond II" (Bridge over troubled Water)
- ・イェルク・ペーター・ミットマン 《青の向こう側 II》(2013)
 Jörg-Peter Mittmann "Jenseits der Bläue II"
- ・ローマン・ハウベンシュトック＝ラマティ 《星座》(1971)
 Roman Haubenstock-Ramati "Konstellationen"
- ・伊藤 美由紀 《月の位相》(2006) (フルート、ヴィオラ、ハーブ)
 Miyuki Ito "Lunar Phases"
 ・ 《スプリング・エフェメラル》(2024) 日本初演
 Miyuki Ito "Spring Ephemeral"
- ・今井 智景 《新作》(2024) (ヴァイオリン) 世界初演
 Chikage Imai "New Work"
- ・岸野 末利加 《ラメント II》(2014) (ヴァイオリン、ヴィオラ)
 Marika Kishino "Lamento II"
- ・武満 徹 《ヴォイス》(1971) (フルート)
 Toru Takemitsu "Voice"

アンサンブルメンバーによる公開レッスン受講生募集中
 募集要項リンク : bit.ly/3LC8pHa



2023年開催されたニンフェール第19回公演で名古屋市民芸術祭特別賞「クリエイティブ企画賞」を受賞し、結成20周年となる今年度は、ヨーロッパを中心に現代音楽に力を入れて国際的に活躍するアンサンブル・ホリゾンテとのコラボレーションコンサートとなる。2021年にリリースされたCD『自然をめぐる対話』に収録されたアンサンブルのレパートリーとなっている作品と、ニンフェール結成20周年記念のために作曲された今井智景、伊藤美由紀の新作を含んだ構成となる。アンサンブル・ホリゾンテとニンフェールでも度々紹介している愛知県で活躍する澤田幸江との共演や、名古屋ではなかなか聴く機会のないドイツの作曲家による作品が、作曲家でもあるイェルク＝ベーター・ミットマンの指揮で演奏される。ニンフェールでは始めてとなる多様な編成による作品を、会場で是非お楽しみ下さい！

◆ニンフェールについて

2005年愛知県で開催された国際芸術音楽祭に参加を機に作曲家の伊藤美由紀により結成されたプロジェクト。愛知県にゆかりのある作曲家、演奏家を国内外から招聘し、テクノロジーを利用したり、映像作家とのコラボレーション、文学をテーマとしたコンサートなど個性的なアイデアで精力的に企画を行う。2014年第10回公演『東洋と西洋の紋』にて、チャレンジ精神に満ちた企画で且つ公演成果の水準の高い優れた公演に贈られる第14回佐治敬三賞を受賞。第19回公演は、長年現代音楽に挑戦してきた成果が結実し、現代音楽を楽しむための創意工夫が随所に凝らされた公演として名古屋芸術祭特別賞「クリエイティブ企画賞」を受賞。

～ 出演者 Profile ～



アンサンブル・ホリゾンテ / Ensemble Horizonte)

1990年以降、作曲家イェルク＝ベーター・ミットマンのもと、デトモルト(ドイツ)を拠点に、多様な編成(デュオから16人編成まで)で、現代音楽の演奏を中心に活動しているプロフェッショナルアンサンブル。ENSEMBLE HORIZONTEは現在、ドイツ全土より選ばれたオーケストラ資金提供プログラム、27団体のうちの1団体となっている。

<http://www.ensemblehorizonte.de/>



澤田幸江 (ヴァイオリン)

愛知県立芸術大学音楽学部卒業。大学在学中に中村桃子賞、卒業時に桑原賞を受賞。第67回読売新人演奏会出演。フィンランド国立音楽院シベリウス・アカデミーのソリストコースを最優秀の成績で卒業。在フィンランド日本大使館主催「日本・フィンランド修好80周年記念演奏会」に出演。1998年～2007年にかけてフィンランド北部「オウルンサロ国際音楽祭」に毎年出演。2000年にはヘルシンキにて初のリサイタルを開催し好評を得る。また、フィンランド・ラ・テンペスタ室内オーケストラのメンバーとしてフィンランド各地での公演やレコーディングに参加する。一方、日本国内においては三度にわたるソリサイタル(いずれも名古屋・電気文化館サ・コンサートホール)を開催、オーケストラのソリストとしてモーツァルト、ベートーヴェン、シベリウス等のコンチェルトを協演、NHK-FM「名曲リサイタル」をはじめ各地での演奏会や音楽祭に出演している。ライフワークとして取り組んでいる北欧音楽の分野で愛媛教育文化財団より個人助成受賞。シベリウス没後50年を記念したリサイタル(名古屋市民芸術祭参加公演)では非常に高い評価を受け、第3回「名古屋音楽ベンクラブ賞」受賞。これまで愛知県立芸術大学音楽学部、三重大学教育学部の非常勤講師を歴任。現在、椋山文学園大学教育学部非常勤講師、日本シベリウス協会運営委員、ザ・ストリングス名古屋メンバー。



伊藤美由紀 (作曲)

愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了後、コロンビア大学(ニューヨーク)で作曲をトリストラン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員としてIRCAM(フランス国立音響音楽研究所)にて研鑽を積む。ミュージック・フロム・ジャパン(ニューヨーク)、アタック・シアター(ピッツバーグ)、愛知芸術文化センター、Sinus Ton(ドイツ)、大矢素子、加藤訓子、等からの作品委嘱ほか、名古屋文化振興賞、日本交楽団振興財団作曲賞入選、フランコ・エヴァンジェリスティ国際コンクール(イタリア)優勝などを含み、カーネギーホール、レゾナンス・フェスティヴァル(パリ)、ISCM(香港、エストニア)、ICMC(マイアミ)、SMC(ギリシャ、スペイン)、Re:New(デンマーク)、Visions Sonoras(メキシコ)、Foro国際現代音楽祭(メキシコ)、アジア音楽祭など国内外で作品の発表を続けている。また、ニンフェール、JUMP(日米:新しい音楽の展望)の代表として自主企画公演を定期的に展開。ニンフェール第10回公演は第14回佐治敬三賞受賞、第19回公演は名古屋市民芸術祭特別賞「クリエイティブ企画賞」を受賞。『時の砂』がALCD80から、文化庁芸術祭参加作品に入選した『もうひとつの声』が2020年トーンフォレスト・レコードからリリース。執筆活動として『音楽現代』に特集記事や公演批評を寄稿。2019年カワイサウンド技術音楽振興財団研究助成による研究テーマ『二十五絃の可能性』。国際交流基金の助成により3回メキシコ公演ツアーを行い現代音楽を通しての文化交流活動も継続している。今まで名古屋芸術大学、千葉高科大学、愛知県立芸術大学大学院、愛知県立大学、四川音楽学院(中国)などで後進の指導にあたっている。

http://www.miyuki-ito.com/Miyuki_Ito/Home.html



イェルク＝ベーター・ミットマン

(作曲、指揮、オーボエ)

ドイツ出身。Ensemble Horizonteの設立者で代表。ドイツ学術交流会の奨学生としてデトモルト、ビーレフェルト、ミュンヘンで音楽(ヘルムート・ヴィンシャーマン、ゲルノット・シュマルフスにオーボエを師事)、哲学、歴史を学ぶ。1992年に初期ドイツ観念論についての博士論文を完成させた後、音楽理論と哲学の教師および著述家として活動する一方、作曲家、指揮者、オーボエ奏者としても活躍。デュースブルク、ヴッパータール、ボーフム、ミュンヘン大学で講義やセミナーを開催。また、ミュンヘン音楽大学で長年にわたり音楽理論の教師を務め、音楽と哲学の境界領域に関する学会にも参加。2000年ヘルフォルト郡文化奨励賞、2001年ブランデンブルク東ドイツ放送作曲コンクール入賞、2002年リッペ地方文化賞などを受賞。2014年、ドイツ放送局とNRW(Nordrhein-Westfalen)芸術財団の支援を受けWERGOからポर्टレートCDをリリース。幅広い活動と功績は、ドイツ現代音楽界において重要な位置を占めている。



今井智景(作曲)

愛知県立芸術大学作曲科卒業、アムステルダム音楽院修士課程修了。これまでに作曲を湯浅謙二、松井昭彦、W.ヘンドリクス、F.ニーダー各氏に師事。「音楽におけるベクトル(Vector in music)」を探索し、音楽自身が有機体であることを意識して作曲する。その延長線上に、映像や写真、コンテンポラリーダンス、舞台美術など他分野芸術との交流を深めた作品が多数あり、演出も手がける。近年では「社会と共存する芸術活動」を追求

し、愛知における現代音楽の裾野を広げるため、国内外の演奏家を招いてレクチャー&コンサートシリーズ「クロスバウンダリー」や現代音楽アカデミーなどの開催と共に、中川運河助成事業ARToC10やあいちトリエンナーレへの参加など地域に根ざす様々な活動を行っている。作品は、自身がプロデュースする公演をはじめ、フェスティバル・ドートンヌ、西ドイツ放送局、ミュージック・フロム・ジャパン、ハナツミロワ、ベルティシェ・ソノラ・アンサンブル、鈴木俊哉氏などから委嘱を受け、世界各地で演奏されている。2020年、現代音楽における金字塔「アンサンブル・モデルン」の40周年記念公演にモリコーネやラッヘマンなど名だたる作曲家の中で唯一の日本人作曲家として招聘される。2022年国際芸術祭あいち(旧トリエンナーレ)の招待作家として発表した全曲自らが作曲、構成と演出を手がけた音楽と写真と映像による舞台芸術作品「シネクドズム3」は、音楽関係者だけでなく、俳人・舞台芸術・美術評論の馬場駿吉氏をはじめ、現代アート関係者にも大きなインパクトを与えた。2023年冬には国際アンサンブル・モデルン・アカデミー20周年を祝した委嘱作品が初演され高い評価を受けた。ドイツのミュージック・プロダクション・ダブリングハウス&グリム、アンサンブル・モデルン・メディア等より作品が収録されたCDが発売中。第28回国際入野作曲コンクール、Prix Annelie de Man Prize 佳作受賞。Seainx project(シーインクス・プロジェクト)主宰。
www.chikageimai.net、seainxproject.cloud-line.com